

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あけぼの
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市江南区曙町2丁目5番19号
記入者名 (管理者)	澤田 禄和
記入日	平成 21年 9月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者様一人ひとりが地域の中で安心して生活を送ることが出来るよう事業所独自の運営理念を掲げており、その言葉に込めた意味を理解するよう努め、可能な限り住み慣れた環境の中で、その人らしい人生を送れるように取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を大きく掲示し、目標に向けて日々取り組んでいる。日々の取り組みがご利用者の皆様にとってお役に立っているか、または実践できているかどうかを毎月の職員会議の際に確認し、介護サービスの資質向上に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域主催の各種行事や防災訓練に参加させていただき、交流を図っている。また、地域に少しでも貢献出来るように事業所を活用し、近隣にお住まいの方々に対して認知症についての会を開催しているとともに、無料の口腔ケア相談会も定期的実施している。泊まりのサービスをご利用されている方のご家族の皆様には、毎月日々の生活状況を手紙に書いてお知らせさせてもらい、理解を得られるように取り組んでいる。その他、3ヵ月に1回独自の新聞を発行しており、活動状況の報告や行事への参加にお誘いし親睦を深める取り組みを実施している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域密着型サービスへのご理解を得られるように定期的に活動状況を回覧版に入れさせてもらい日常的に交流を図ることができるように取り組んでいる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、情報交換ができるように地域主催の催し物に参加している。また、地域密着型サービスへのご理解を得られるように定期的に活動状況を回覧版に入れさせてもらい日常的に交流を図ることができるように取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所として地域貢献できるように、定期的に民生委員の方々にお声を掛けさせてもらっている。また、「家族会(何でも相談会)」とお題をつけて、近隣のスーパーや回覧板にご案内を入れさせていただき話し合いの場を設け、地域に少しでも貢献できるような取り組みを実施している。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価と外部評価を実施するにあたり、その意義を全職員に説明し共有した上で個々に自己評価を実施している。改善の余地がある事にたいしては、具体的な取り組み方法を模索し、今後のサービス提供の資質向上に努めている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は併設されているグループホームとの合同で実施しており、色々な意見交換ができるように毎回違うご利用者様とご家族の皆様に参加をお願いしています。自治会長や同区内の福祉施設長、地域包括支援センターの方等にも参加を依頼し、意見や提案、助言を頂戴すると共に、今後の事業所運営に役立てる取り組みを実施している。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所や区役所との関係作りのために、必要な書類等の届出の際には直接足を運び、馴染みの関係が作れるように取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護や成年後見制度に関する研修会について、開催の機会がある場合は参加させていただき、学ぶように努めている。成年後見制度に関しては現在、必要対象者がいないので活用はしていない。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について、全職員に周知して内容を周知に努め虐待防止に努めている。また、地域包括支援センターの協力を得て虐待防止に関する研修会を実施している。虐待が見過ごされないように身体状態等の把握に努め、疑わしい場合には関係者に必要事項の聞き取りを行うと共に、必要な場合は地域包括支援センターの協力を得られる体制を整えている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をさせていただく場合は、ご利用開始前に十分な話し合いの場を設けている。サービスをご利用されるにあたり疑問点や希望等の聞き取りを行い事前準備の徹底を行っている。状態の変化に伴う解約に関しては、関係者と密に連絡を取るよう努めている。ご利用された後に対応が困難場合で		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の意見や苦情等は専用の聞き取り用紙に記入し全職員が回覧し、サービス内容の検討や変更を実施している。外部の方々には、苦情受付第3者委員も参加している運営推進会議の場で、内容の報告と改善策を報告し、今後の事業運営に役立っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームでの生活の様子をお手紙に書き報告をしている。状態が急変した場合は、緊急連絡先を皆様よりお預かりしているため、即時に電話連絡し対応している。また、独自の新聞を3か月に1回発行し、日々の様子や職員異動等の報告をしている。金銭管理に関しては、金銭管理委託委任契約を結び、毎月収支の報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の苦情や意見、提案等は専用の聞き取り用紙に記入し全職員が回覧し、ご希望に添えるように対応している。外部の方々には、苦情受付第3者委員も参加している運営推進会議の場で、内容の報告と改善策を報告し、今後の事業運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、現場の意見を聞き取るように努め、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。この他、意見や提案を自由に書き込みできるノートを設置し、職員会議の際に意見交換や検討をして質の高いサービス提供がなされるよう取り組んでいる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者様の状態や希望、ご家族を取り巻く関係者の状況に応じて柔軟に対応できるように、調整をしながらサービス提供できるように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等によって職員の入れ代わりがある場合は、事前にご利用者様とご家族の皆様には報告、挨拶を行っている。サービスの質低下を防ぐために、入社後は一ヶ月以上、他の職員と共に業務に入りご利用者の皆様に負担がかからないように配慮している。		
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	サービスの資質向上のために各種マニュアルの整備に努めている。また、その時々のご利用者様に合わせて必要なマニュアルの見直しを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てており必要に応じて計画の見直しに取り組んでいる。外部で研修を受けられる機会がある場合は職員に周知すると共に自己啓発のために研修に参加し資質向上に努めている。	○	今後、地域包括支援センターのご協力を得て必要な研修の実践に取り組んでいく予定である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の同業者による連絡会や勉強会に参加をして情報交換やネットワーク作りに取り組んでいる。また運営者や管理者は複数の他の事業所で開催されている運営推進会議に参加しており、お互いのケアに役立っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年間の休日日数を増やしストレス軽減への取り組みを実施すると共に体調不良時の急な休みに関して本人と相談のもと有給休暇の取得に柔軟に対応し、毎月の勤務では休日の希望や勤務の希望を聞き取り職員の働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に担当業務を分担し各自が責任感をもって勤務に入れるようにしている。またご利用者様一人ひとりにも担当制をとり、毎月サービス内容の検討を行いケア方針を模索することで職員の資質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用前にご本人との面談の機会を設けさせていただき、希望の聞き取りや不安に思うこと疑問に感じていることを解決する話し合いの場を設け安心してご利用できるように取り組んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用前にご本人やご家族、回りを取り巻く各関係者の方々より今後の意向や意見、希望の聞き取りを行いその内容を受け止め、話し合いの場を設けて安心してご利用できるように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用の相談を受けた際は、現在その方にとって必要なサービスを模索し最適なサービスが提供されるように他の事業所とも連携し調整を図っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得し安心してサービスをご利用できるようにご利用前に事業所の見学や短時間からのお試し使用を勧めさせていただき徐々に慣れ親しんでいただけるよう取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者様と一緒に食事作りやレクリエーション等を通じて共に学び、共に考え支え合いながらご利用していただけるよう取り組んでいる。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用前にご家庭での介護状況や生活習慣の聴き取りを行い情報交換した上で今後のケア方針を決めてサービス提供させていただくことでご本人と共に支え合って行けるような関係図くりを目指している。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族との関係を把握するためにご利用前に話し合いの場を設けさせていただき、様々なケースに対応できるようにご利用開始後もお手紙や電話連絡で様子を報告している。また面会の際にはその都度、近況状況を報告してより良い関係作りに取り組んでいる。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた人間関係や馴染みの場所との関係が途切れないようにいつでも面会や電話連絡ができる体制を整えている。またご家族のご協力を得て一時帰宅の打診や外出の支援に取り組んでいる。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様一人ひとりの出来ることや難しいことの把握に努め役割を分担することで個々に関わり合い支え合ってご利用できるように取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録が施設計画とリンクするように実践に基づいた記録への取り組みを行っている。また各担当の職員が毎月サービス内容の見直しを行い今後のケアに役立っている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者様やご家族の介護状況と希望や必要性に応じてケア内容を柔軟に組み合わせて事業所としての多機能性を活かした取り組みを実践している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々に事業所へのご理解とご協力を得られるように地域主催の行事や催し物に参加させていただいたり定期的に民生委員の方へご挨拶に伺っている。年2回の防災訓練の際には消防機関や警備会者と連携し訓練の実践に取り組んでいる。またご利用者様の資源活用としてボランティアのご協力を得て地域との交流の場を設けている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人にとって最適なサービスを提供させていただけるように同業者の管理者や介護支援専門員、地域包括支援センターの方々と話し合う機会を設け他のサービスをご利用できるように支援している。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方々と情報交換をさせていただくために毎月開催されている連絡会に参加したり、2か月に1回開催している運営推進会議に参加をお願いしており話し合いの場を設けることで情報交換をして共に協働している。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医院主治医との関係を築くために定期的な受診の際には近況の状況報告を行い連携を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様一人ひとりのこれまでの生活歴や習慣、人間関係の情報収集をご利用前にご家族や関係者の方々と話し合いの場を設けさ情報の把握に努め、その方の尊厳を大切に声かけの実践に取り組んでいる。また個々の情報については鍵の掛かる書庫で保管、管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望や考えを、ケアに反映できるように日頃から話を良く聴き声かけ説明を行いご家族の協力を得ながら納得してご利用できるように取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様が充実したメリハリのある生活を送っていただくために 1日の食事の時間や水分摂取の時間、入浴の時間等は予め決まっているが、一人ひとりの生活リズムや希望に合わせて日々のケア方法を検討し支援している。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族に協力を得て馴染みのある理・美容店に行きご本人の希望に合わせた支援を実践している。またご希望に応じて理・美容店の方に事業所へ来ていただき身だしなみやおしゃれができるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様一人ひとりの出来ることや苦手なこと等の把握に努め個々に役割を持ち職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が希望される飲み物等を提供させていただけるように支援しているが、飲酒や喫煙に関してはご利用前に事業所内では提供できない事を説明し承諾の下ご利用をお願いしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な排泄の声かけと交換により清潔を保持して、一人ひとりの自尊心を損なわないように支援している。またご本人よりトイレや交換の訴えがあった場合には即座に対応している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を午後14時から17時の間として1日4名程の入浴者のためゆっくりとくつろいだ中での入浴が可能。その方にとって出来ることは実践していただき、入浴により清潔の保持や皮膚状態の観察を行っている。その他にご希望される場合は入浴できるようにその都度、支援している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの生活習慣やその時々身体状況に合わせて休息や安眠できるように声かけ支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様一人ひとりのこれまでの生活習慣や趣味等に合わせることが出来る事と出来ない事、苦手なことの把握に努め役割分担をして日々の生活に充実感を持って楽しくご利用できるように支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご利用者様に自己管理をお願いしている。一人ひとりのご希望に応じて買い物や金銭を使えるように支援している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者様のよりご希望があった場合や天候の良い日には散歩に出掛けて日光浴を楽しむと共に、玄関先の草木や花壇作りをして気分転換できるような取り組みを実践している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行時計画を立てて外出の援助を行っている。また外出の行事を行う際には、ご家族に案内を出して参加をお願いしている。身体状況に合わせて個別に外出できる機会を設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人よりご希望があった場合はご家族や人間関係を大切にするため電話を掛けられる体制をとっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用開始前の面談時や契約時にいつでもお越しいただける事を説明して馴染みのある方々が来ていただけるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の内容を理解しており身体拘束をしていない。	○	介護支援専門員の連絡会に参加し身体拘束に関して学ぶ機会はあるが、業務上の配置によって事業所内からは代表者の数名参加に留まっている。今後、地域包括支援センターのご協力を得て事業所内で研修会の実施を予定しており、身体拘束に関する内容の再確認と学ぶ機会を設けケアの実践に取り組んで行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関や廊下、居室内の鍵を掛けているが日中は鍵を掛けずに対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者様の尊厳を大切にして日中と夜間を通して様子の把握に努めている。夜間は安眠を妨げない範囲で定期的に巡視を行い様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な薬品や消毒液等は常に鍵の掛かる場所で保管、管理している。包丁やハサミなどの刃物に関してはいつでも使えるようにしてあるが、使用する場合は怪我等の事故に繋がらないように職員が見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の発生に繋がらないようにヒヤリ・ハット報告書を活用し一人ひとりの身体状況や生活リズムの把握に努め事故防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変者の発生や緊急時の対応として警備会社と連携をして緊急連絡体制をとっている。また定期的に消防機関のご協力を得て心肺蘇生法やAEDの操作方法について学ぶ機会を設け急な場面でも対応できるように取り組んでいる。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災会長と連携し災害発生の際には要救助者がおり避難誘導してもらえるように協力をお願いして働きかけている。また毎年実践を想定した内容で訓練を実施し日頃より関係作りに取り組んでいる。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用前にご家族に対してリスクに関しての説明を行っている。また身体状況の変化に伴い新たなリスクが考えられる場合はその都度、説明を行い対策を模索した後に今後のケア方針についてご家族に報告し記録に残している。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定と検温を行い健康管理を行うと共に異変が無いか確認を行っている。体調不良を訴える事が難しい方に関しては表情や身体状況から察知し、必要な場合は至急ご家族に連絡し医療機関と連携して受診している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・就寝前と服薬する時間帯によって入れ物を色分けして1回分の服薬量を分けて服薬の支援を行っている。薬の処方が変わった場合は業務日誌やケース記録に記入し服薬後の状態を詳しく記録するように努めケアに活かしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解するように努め薬に頼る前に水分摂取やレクリエーション参加による身体活動によって自然に排泄できるように取り組んでいる。また下剤によって排泄のコントロールを行っている方に関しては担当医と連携して便の状態によって服薬量の調整を行い便秘予防に努めている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行いハミガキや義歯洗浄の実施をして清潔保持に努めている。	○ 年2回提携先の歯科医院にご協力をいただき口腔内の健康状態を診てもらい必要な場合は歯科受診をしている。また事業所内で集団口腔ケア(口腔健康相談会)を開催し必要な方に関しては往診治療してもらう体制をとっている。また地域の方々にも参加していただけるようご案内し無料の相談会を開催している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量に関してご利用者様一人ひとりの身体状況に合わせた食事量や摂取カロリー、食事形態をとっている。食事摂取量や水分摂取量は毎食観察して記録し今後のケアに反映している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防対策や対応方法を決めており、手洗いの徹底や次亜塩素酸系による定期的な消毒を行っている。面会にお越しの際には専用の液体により消毒後の面会をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用前後に消毒を行い衛生管理を行う他に使用後は食器洗い洗浄機を使い高温殺菌をして食中毒の予防に努めている。また毎日、台所を次亜塩素で消毒し発生の防止に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に草木や花壇を作りご家族や馴染みのある方、地域の方々にとって足を運びやすいような雰囲気作りに取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節応じてご利用者様と職員とで一緒に作成した装飾を飾り、落ち着いてご利用できる居住空間作りに取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の個性や性格の把握に努め気の合った方同士が楽しく有意義にご利用いただくために曜日によって座席の変更をしている。通いのサービスをご利用される方にも泊まりの方と同様に プライバシーを尊重し安心して休めるように個々に居場所の提供と工夫に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して穏やかにご利用していただけるように必要な物や好みの物馴染みのある物を持ち込んでもらい空間作りに取り組んでいる。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎日の掃除の際に換気を行い、季節やその時々々の気候、身体状況に応じて空気の入れ替えや空調による温度調節を行い健康管理に努めている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>事業所内には一人ひとりの身体機能を活かせるように手すりや滑り止めを設置し、安全に自立してご利用していただけるように工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ご利用者様が混乱しないように共用スペースや居室に表示をして自立してご利用できるように配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>事業所の周辺には草木や花を植えて見て楽しんでもらったり育てられるように活動の場を提供させてもらっている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・併設する小規模多機能型の事業所と同様に同業者との関わりや交流の場が外に目を向けた活動の実施により毎年増えているように感じます。また事業所内だけではなく、外に向けた活動も今後とも同様にいい地域に貢献できるような事業所作りあげていきたいと考えております。